

意見整理表

目的:「自分たちのまちは自分たちで創る！」を目標とした、興味・関心のための情報の共有であり、その為の情報発信の方法や情報共有のあり方を提言する

課題:地域での「対話の場」や「学び機会」の創出について ～思いや考えの共有を図るために～

情報の出し手側の留意事項		校区自治協議会等、既存ネットワークの課題や現状	課題解決に必要なこと	具体的な意見や取り組み
提言のまとめ(H26)				
④情報の流れや浸透を意識した情報の発信	校区自治協議会や市民活動団体など、既存するネットワークを有効に活用すること。	地域情報を共有して発信して、何かを生み出そうということは、校区自治協議会の本来の役割であり大きな使命。身近にある課題を自分達で解決し、どのようにして乗り越えていくのか、その為にはどのような取り組みをすべきかなど、地域で各種団体が集まり検討し取り組んでいくようなレベルまで成熟していない。	・校区自治協議会の機能を充実する	・校区自治協議会に対し、企画や広報など実践的研修実施 ・校区自治協議会への、企業(地元商栄会等)の参加促進 ・町内会などの集まりに職員が参加し、一緒に議論する
		経済界が地域をつくるということに理解があれば、地域活動は非常に早く上手くいくと思うが、企業も協力の仕方がわからないし、地域も巻き込み方がわからない。	・企業における社会貢献活動とまちづくり活動を繋ぐ	・社会貢献活動に対する、企業意識の活発化 ・地域活動への参加が、高く評価される人事システム ・校区自治協議会への、企業(地元商栄会等)の参加促進

情報の出し手側の留意事項		学びの機会、対話の場の課題や現状	課題解決(「場」)に必要なこと						具体的な意見や取り組み
			集まりやすい	多様な人の参加	新しい出会いや繋がり	助言者や役立つ物の存在	知識の蓄積、新たな気づき	主体性の発揮	
提言のまとめ(H26)				多様な人の参加		参加者のためになる			
⑤市民の学びの機会を充実	地域での説明会や出前講座の開催など、市民の学びの機会を充実させ、広報媒体での情報発信との効果的な組み合わせについて検討すること。	仕事を持たれる方の多様化で、個々人の都合のよい時間帯の違いなどを考慮すると、昼間の時間帯が沢山の人が集まるとは一概に言えない。	○	○					・「場」の設定には、開催時間帯への考慮が必要
		子ども会のイベントで子ども達が楽しめることのみならず、社会や地域の利益に繋がる行事の企画を検討したことがある。しかし、地域住民だけでは地域課題をどのように行事へ組み込んでいけばよいか企画することは困難であった。				○			・町内レベルの会議や催事に入ってきてくれる職員が欲しい
⑥地域での対話の機会の創出	検討会や懇談会など住民等の対話・合意形成の場を、できるだけ地域に創っていくこと。	学生は講義やテストの期間と重なって参加できない。	○	○					・時期や時間への配慮は、学生の参加を促す上でも大事 ・大学の講義と連携して対話の場を創出することを検討
		「対話の場」「学びの機会」で欠けている参加層は「女性」と「若者」。参加させるための仕掛けが不足。	○	○					・「若者」については、高校生や中学生まで視点に置く ・生活・消費・食品をテーマに盛り込むことで女性の興味を引く
		「場」というものは、「時間」「空間」「仲間」である。若者が積極的に参加し主体的に発言したり、子育て中のお母さん方が子どもを気にせず参加したりすることは、今までの固定化された「場」では発揮できない。	○	○	○				・新しい出会いや繋がりを創造してゆくことが場作りに繋がる ・失敗事例の事例集や報告会の開催による行政の横の情報共有が「場」の活性化に繋がる
		市民活動支援センター「あいぽーと」では、相当数のボランティア団体の情報を登録している。このような活動の情報については、一部の市民活動者間では共有されているが、地域団体等広く周知がされておらず、折角のセンター機能が有効に活用されていない。				○	○		・「あいぽーと」は対場の場に成りえる。このような既存施設を活用してやってみる
		行政が進めようとしていることについて、市民、民間側でも独自の動きがあっていると思う。そういう動きについて情報を共有することで、いろいろな取り組みを効率的に進めていけるのではないか。				○			・公と私の接点となる場を模索
		まちづくりの先輩達が出来なかった取り組みについて、地域で議論する。地域団体の役員だけでなく、テーマに応じて様々な方を交え、同じ土俵で何回も議論する。一緒に勉強し、対話しながら情報を共有し、その上で、色んな企画を進め、まちづくりを実現している。			○	○		○	・住民同士の集まりや勉強会も「対話の場」・「学びの機会」である
		市民は本当に学びたいのか疑問。よりよい生活をしたい、快適で幸せな安全で安心な暮らし方をしたい、その為の情報が欲しいのではないか。或いは自分の居場所の確認や周囲との関わりなど、そういう意味での情報は確認のため見ると思う。						○	
		ワークショップにおいて、行政が行いたいテーマと市民が行いたいテーマにはずれがある。						○	・市民が「学びたい」「話し合ってみたい」という事項を十分に地元から拾い集める
		現代の情報化社会において、インターネットの活用は避けられない。直接顔を合わせる学びの機会や対話の場を大事にしつつ、インターネットでも展開し、直接参加できない方々を拾うことができる。	○	○					・ネット上での対話の場、学びの機会の検討
		行政主導で行おうとしていたことを、市民と一緒に考えていく方向に転換したことで、市民発のアイデアがたくさん出されたという、良いスパイラルが起こった。							○ ・市民の方から良いスパイラルを起こせるようになることが必要
	行政の各課でワークショップを行っているため日程が重なり、市民、市職員共にワークショップ疲れしている。							・各課の連携により一緒に行うことで、よりよい学びの機会や対話の場が実現できる。	
	形だけの、ワークショップ等の開催が多いのが事実であり、それでは参加者に意図が伝わらず、有益な意見が拾えず意味が無いものとなる。							・「場」の目的を明確にして、参加者と共有する ・目的に合わせたツール(ワークショップ、説明会等)を活用し「場」を設定する	

行政の各課でワークショップを行っているため日程が重なり、市民、市職員共にワークショップ疲れしている。

形だけの、ワークショップ等の開催が多いのが事実であり、それでは参加者に意図が伝わらず、有益な意見が拾えず意味が無いものとなる。